

愛知国際アリーナ課の主な事業の取組状況と今後の取組について

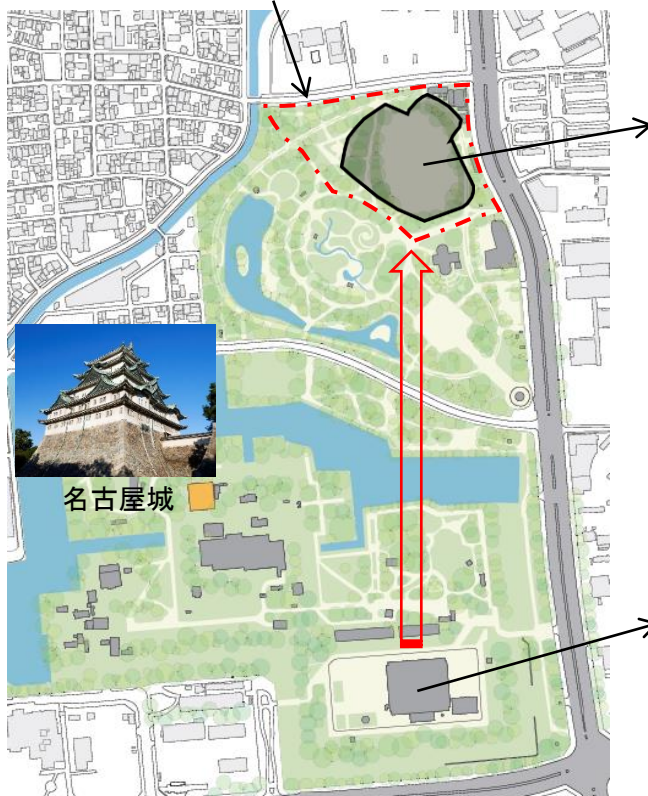
愛知県スポーツ
推進計画基本施策
V

1 愛知県新体育館について

現体育館は、施設の老朽化とともに、規模・機能がスポーツの国際大会を開催するための国際水準を満たしていない。2026年のアジア・アジアパラ競技大会に利用できるよう、2025年7月のオープンに向けて新体育館の整備を進めている。

(1) 事業計画地

名城公園北園の一部 約46,000㎡



【外観】隈 研吾氏のデザインによる樹形アリーナ



【現体育館】



(2) 事業内容

事業手法：PFI手法の「BTコンセッション方式」により、設計・建設から維持管理・運営を一体として民間事業者が実施

事業者名：株式会社愛知国際アリーナ

代表企業 <設計・建設時> 前田建設工業株式会社

その他の <維持管理・運営時> 株式会社NTTドコモ

出資者 Anschutz Sports Holdings (Anschutz Entertainment Group)、
三井住友ファイナンス&リース株式会社 等

事業期間：<設計・建設> 2021.6.1から2025.3.31(3年10か月)

<維持管理・運営> 2025.4.1から2055.3.31(30年)

契約金額：サービス購入料 19,999,100,000円(税込)

(参考)設計・建設費相当額 約400億円

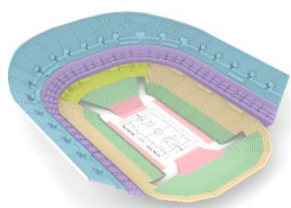
(3) 施設計画

<建築概要>

	I Gアリーナ (愛知国際アリーナ)	愛知県体育館 (現体育館)
建築面積	約 26,500 m ²	7,633 m ²
延床面積	約 63,000 m ²	17,240 m ²
階層・最高高さ	地上 5 階・41.0m	地上 3 階 地下 1 階・20.4m
最大収容人数	17,000 人 (立見含む)	7,407 人

<主な施設>

- ・ メインアリーナは「ハイブリッドオーバル型 (オーバル型+馬蹄型)」の観客席と 30m 以上の天井高さを確保



【イメージ図】

【座席計画例】

大相撲	11,000席
バスケットボール	15,000席
フィギュアスケート	14,100席

- ・ 県民のスポーツ活動や文化活動の拠点となるサブアリーナ、多目的ホール等を整備 (サブアリーナと多目的ホールは一体利用が可能)

<維持管理・運営>

- ・ 最新技術を活用した維持管理システムを導入し、計画的にアップデートすることで、常に最先端のスマートアリーナとし、顧客満足度を最大化
- ・ 世界最先端のスマートアリーナにふさわしい最新の観戦・鑑賞体験をセンタービジョンや国内アリーナ最多相当数のモニターなどを配置して演出
- ・ ICTを活用して、AR観戦やマルチアングル観戦など、非日常的な体験を提供

(4) 利用料金の主な内容 (税込)

区分	メインアリーナ	サブアリーナ・多目的ホール
(※)一般利用	【平日】 825 千円 【土日・休日】 1,100 千円	【全部利用】 34 千円、【1/2利用】 17 千円 【一体利用】 68 千円
興行利用	【平日】 8,800 千円 【土日・休日】 14,300 千円	<単独利用> 【平日】 605 千円、【土日・休日】 902 千円 <一体利用> 【平日】 1,210 千円、【土日・休日】 1,804 千円

※営利を目的としないスポーツ、学校教育又は社会教育を行うための利用

(5) スケジュール

2021 年度 : 契約、設計

2022 年度～ : 設計、建設工事 (7 月着工)

2025 年度 : 7 月 1 日開業予定

2026 年度 : アジア・アジアパラ競技大会 (2026/愛知・名古屋)